

(本様式は提出様式と記入例を兼ねています。)

平成23年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)調書

本調書は、平成23年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)の交付(内定)を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、プログラムの申請書等における記載事項との整合性にも留意して記入して下さい。

1. 大学名/設置者名	北里大学 / 学校法人北里研究所
2. プログラム名	大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用
3. 取組名称	北里大学病院業務改善推進事業
4. 選定年度	平成23年度
5. 事業推進代表者/ 事業推進責任者	学校法人 北里研究所 理事長 柴 忠 義 学校法人北里研究所 北里大学病院 事務部長 高 橋 修
6. 事務担当者 内容等の問い合わせに適切に対応できる事務担当の方で、主担当、副担当を必ず1名ずつ記載して下さい。	北里大学病院事務部人事課長 加 藤 昭 電 話 042-778-8133 FAX 042-778-9371 E-mail a.kato@kitasato-u.ac.jp 北里大学病院事務部経理課長 原 田 毅 電 話 042-778-9309 FAX 042-778-9371 E-mail tharada@kitasato-u.ac.jp
7. 選定取組の概要(400字以内)	<p>平成23年度「大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用」で選定された「大学病院業務改善推進事業」は、大学病院における、より安全で良質な医療を提供し、患者サービスの向上に資するため、医師、看護師の業務負担を軽減するとともに、医師が本来の業務に専念できるような環境を整備することを目的とする取り組みである。今年度は、平成21年度に開始した本事業を、根幹としながら外来診療アシスタントや手術室における事務職員、並びに医療ソーシャルワーカー、診療情報管理士等職員を配置し、医師、看護師の業務支援を拡大する。</p>
8. 補助事業の目的・必要性	<p>(1) 全体 本事業は、より安全で良質な医療を提供し、患者サービスの向上に資するため、医師、看護師の業務負担を軽減するとともに、医師が本来の業務に専念できるような環境を整備することを目的とする取り組みである。平成21年度より本事業の中で実施してきた、外来診療の支援、手術室に於ける入力支援、入院患者の転院促進を図るための支援、診療記録の入力支援を継続、拡大することで、医師、看護師の業務を軽減し、医師の労働環境の改善を図るとともに、医師本来の業務の充実を図る。</p> <p>(2) 本年度 本補助事業は、上記の目的を達成するため本年度は、平成21年度より導入した外来診療アシスタントを増員配置し、外来診療における医師の支援業務の拡大、充実を図る。また、平成22年度から本事業のなかで行っている手術室における外科医師、麻酔科医師の手術術式、麻酔法、薬液等の入力支援業務を拡大する。当院の救命救急センターは地域における三次救急を担っている。救命救急病棟は急性期を脱した段階で転棟、転院、退院が図られねば新たな入院患者を受け入れられなくなり救命救急としての機能を果たせなくなる。これを改善するため、平成22年度本事業の中で医療ソーシャルワーカーを同センターに配置し転院、退院にかかる医師の事務作業、手続業務を支援し、転院、退院の促進を図っている。平成23年度もこれをさらに継続、拡大する。当院では電子カルテシステムが完成していないため、手書きされた診療録、サマリー、手術記録を診療情報管理士がスキャナーで読み取る作業を行なっている。平成21年度より本事業の補助を受けて当該業務を行なっているが、本年度もこれをさらに継続し、精度を高めるとともに業務の拡大を図つ</p>

ていくことで医師の診療業務を支援する。

9. 本年度の補助事業実施計画

- ① 4月 診療アシスタント8名の雇用を確保し、全体で12名の診療アシスタント現場に配置し、診療支援業務を拡大する。
- ② 4月 手術室に配置する受付事務職員に加え麻酔科医師の業務を専門に支援する事務職員を配置し、継続して医師、看護師の支援業務にあたる。
- ③ 4月 救命救急センター病棟の転院、退院を促進するための医療ソーシャルワーカーを配置し継続して医師の支援業務にあたる。
- ④ 4月 医師に代わって診療記録をスキャナー入力する診療情報管理士を配置して、医師の支援業務を行なう。

10. 補助事業の内容

本補助事業の内容は以下のとおりである。

- ① 診療アシスタントによる外来診療支援業務
外来診察室において、次の業務を行うことで、医師、看護師の業務負担を軽減する。
患者の案内、誘導、車椅子の介助、カルテの振り分け、診療経過記録用紙、検査結果の出力とカルテへのセット、再診予約の取得と予約情報の入力、
- ② 手術室における外科医、麻酔科医師の診療支援業務
手術室に配置された事務職員が外科医師、麻酔科医師の術後の手術時間、術式、麻酔法、薬液、使用材料等のコンピュータ入力を支援する。また、外科医師、麻酔科医師の術前術後の診察にかかる患者家族の呼出、案内等の支援を行う。その他に、手術中に使用する輸血の受け渡しに伴う依頼、確認、搬送等の業務、麻薬の在庫管理と補充業務、迅速検体の回収処理等医師、看護師に代わって受付事務としての支援業務を行う。
- ③ 救命救急センター病棟の退院、転院を促進することで入院の改善を図る。
救命救急センター病棟の退院、転院を促進するため、医療ソーシャルワーカーは、地域の医療機関SWとの交流の中で転院先となる医療機関の情報を絶えず入手し、入院患者の転院先を確保する。転院にあたって対象患者の情報を事前に流すことによって、スムーズな受入れ体制を確保することで、転院、退院を促進し、転院にかかる医師の業務軽減を実現する。
- ④ 診療情報管理士による診療記録入力支援
診療情報管理士により、次のような外来、入院の診療録情報をスキャナー入力することで、医師の業務を軽減する。
外来診療記録、手術記録、退院サマリー、他院からの紹介状

11. 補助事業から得られる具体的な成果

上記の本年度の補助事業実施計画を実施することにより、本補助事業から得られる具体的な成果は、以下のとおりである。

- ① 診療アシスタントが外来診療支援業務を行うことで次のような成果が達成される。
 - ・ 外来診察にかかる医師の診察以外の業務が軽減することで診療の実質時間が増加する。
 - ・ 患者の無駄な時間が省かれ、待ち時間の短縮と共に、病院滞在時間も短縮することができる。
 - ・ 車椅子の患者を含めた患者案内をきめ細かく行うことで、スムーズな患者の流れを造ることができる。
 - ・ 結果、患者サービスの質を高めることができる。
- ② 手術室における外科医、麻酔科医師の診療支援業務
 - ・ 手術室における医師の事務業務が軽減されることで、直接手術に関わる時間や術後の患者、家族に関わる時間が増加する。
 - ・ 麻酔科医師の事務作業を軽減することによって麻酔科医師の術前、診察等の患者に直接関わる診療業務時間を拡大することができる。
 - ・ 手術室における看護師の事務作業が、軽減することで看護師の専任業務にかかる時間を増加することができる。
 - ・ 手術室における、事務作業の効率化、専門化が推進されることで、手術室の安全性を高めることができる。
- ③ 医療ソーシャルワーカーによる退院、転院を促進する
 - ・ 退院、転院にかかる他医療機関との連絡や調整業務が軽減することによって、医師、看護師の専門業務に時間を割くことができる。
 - ・ 退院、転院が促進され、空床が確保されることで新たな救急患者を受入れることができる。
 - ・ 救命救急病床が高回転、高稼働を実現することで急性期医療を担う地域の基幹病院として役割を果たすことができる。
- ④ 診療情報管理士による診療記録入力支援
診療情報管理士が外来、入院の診療録の情報をスキャナー入力することで、次のような成果が得られる。
 - ・ 医師の記録作成にかかる業務時間を最小限にすることができる。
 - ・ 医師の診療記録を入力する業務を軽減することができる。
 - ・ 手書きの診療記録がコンピュータに入力されることで、診療情報をコンピュータから閲覧することが可能となる。
 - ・ 診療記録の閲覧に時間を要さず、診療業務の効率化が図れる。